

序 文

本市では、平成20年度に富岡製糸場総合研究センターを立ち上げ、富岡製糸場に関する総合的な調査研究を開始しました。これまで文字通り「総合的」に、富岡製糸場に関する様々な側面について、地道に調査研究活動を続けてまいりました。今年度は10年目に当たる節目の年です。

おかげさまで、その間、富岡製糸場が世界遺産となり、繰糸所及び東西の置繭所が国宝に指定されるなど、当センターの調査研究活動の成果が多少なりとも貢献できたのではないかとと思われる慶事もありました。

富岡製糸場については、まだまだ解明されていないことが多く、調査研究の必要性は明白ですが、諸般の制約のなかでは地道な努力と継続こそが大きな力となります。次の10年、20年と引き続き着実に活動を続け、富岡製糸場の歴史を一層明らかにしていきたいと思えます。

この度、平成29年度の調査研究活動の成果の一端を報告書としてまとめました。富岡製糸場の価値と魅力を伝える情報発信の一助となることを祈念して、序文といたします。

平成30年3月

富岡市長 岩井賢太郎